



滋賀県東近江市 太郎坊宮 周辺

ふちんかん

先日、乗りテツとして近江鉄道を訪れた際、八日市線の車窓からピラミッドのような形の山が目に入った。右写真のように荒々しい岩肌が周囲から浮きあがっている、この岩山が赤神山（太郎坊山）である。



そしてその中腹に、唐突に朱塗りの大きな建造物があり、そこから山頂に向かう急坂に本殿を始めいくつかの建造物がへばりつくように建っている。これが阿賀神社である。阿賀神社は「勝利と幸福を授ける神様」である天照大神の第一皇子神を祭っている。別名の太郎坊宮の方が通っていて、「太郎坊」とは天狗の名前とのことで、背後の太郎坊山の荒々しい山体は確かに天狗伝説にふさわしい感じがする。



実はこの太郎坊宮は、30年前の「ローカル私鉄1991」で、近江鉄道周辺の観光地のひとつとして取材したことがある。今回乗りテツで見つけて、背後にある太郎坊山に登ってみたいとなった。そして1ヶ月後、今度は撮りテツとして近江鉄道を訪れたついでに登ってきた。



参道

近江電鉄の最寄り駅は、太郎坊「前」を名乗っているものの、駅から神社の麓までは、けっこう距離がある。

今回は車での撮影行なので、ここはサクッと踏破した。

ドラレコの映像→ https://www.ma-2.com/blog1/?page_id=6830

麓に駐車場はあるが、中腹にある祈祷殿（遠目にも目立つ朱塗りの大きな建物）まで車で登れてしまう。麓から本殿まで急な階段で742段あり、この祈祷殿までも約500段ある。つまり3分の2は車で登れてしまうわけだ。今回はここをベースに太郎坊山を中心に東半分を散策することにした。

瓦屋禅寺

聖徳太子が瓦を大量に造らせ四天王寺建立に用いたのが寺名の由来とのこと。ここから西にある尾根に取り付いた。

箕作山

箕作山城は戦国時代の六角氏の城として名を知っていたので、登頂した。が、どう考えても城にできるような広さもないし、遺構もない。どうやら城はかなり北に離れた低い位置にあったようで、勘違いで登山してしまったようだ。



赤神山(太郎坊山)

瓦屋禅寺西の尾根のピークに戻り、南に進むと赤神山への道が分かれる。ベージュの砂地にブドウ色の紗が混じる独特の岩肌を眺めながら登った。人気のない山道の単独行であったが、さすがに山頂にはハイカーがいた。誰もいないようなら小型ドローンを飛ばしてみたかったのだが断念。赤神山から南に目をやると、低い位置にもう一つピークがあり、こちらが太郎坊宮のご神体であるらしい。



阿賀神社(太郎坊宮)

赤神山から北に戻り、赤神山の東を巻くように下っていくと、阿賀神社の本殿へ向かう石段に合流する。ここからはあと少しで本殿である。本殿前には人が一人通れるだけの幅で岩を切り裂いたような亀裂がある。この岩を夫婦岩といい、この亀裂による隘路は岩石ができる際の節理にそって割れ目が発達したものである。

本殿を参拝した後は、なだらかな坂道を下り、祈祷殿の駐車場に下りた。



3Dパノラマ写真【箕作山・太郎坊山・太郎坊本殿など】

<https://www.ma-2.com/pano/tarobo2021.htm#top>